

第58期 報告書

令和6年4月1日～令和7年3月31日



ホテル立山

立山貫光ターミナル株式会社

事業概況 (令和6年4月1日～令和7年3月31日)

令和6年度の事業概況についてご報告申し上げます。

令和6年度は、緩やかな景気回復が進む一方、長期化するウクライナ情勢や中東での度重なる軍事衝突などの不安定な国際情勢に起因したエネルギー価格・物価の高騰が続き、依然として先行き不透明な状況が続きました。観光業界においては、円安を背景に訪日客を中心とした旅行需要の回復傾向が続いており、国内の主要な観光地が賑わう一方、「オーバーツーリズム」が社会問題となりました。

そうした中、立山黒部アルペンルートの営業再開に合わせ、ホテル立山・室堂ターミナルに於ける宿泊、飲食及び物品販売、及びホテル立山売店部・立山駅店、黒部平店は4月15日に営業を再開し、11月30日まで営業いたしました。

営業の推移を概観いたしますと、立山黒部アルペンルートは、旅行需要の回復基調に加え、北陸新幹線敦賀延伸効果や立山トンネルトロリーバスのラストイヤーが追い風となり、シーズンを通して多くのお客様にご利用いただき、営業を終えることができました。

この結果、ホテル立山宿泊人員は合計26,922人（前期比107%）となり、当期の営業収益は、ホテル立山収入8億70百万円（前期比112%）、店舗（飲食・物品）収入11億70百万円（前期比127%）となり、店舗外収入24百万円、賃貸収入1億88百万円を加えた営業収益合計は22億53百万円（前期比118%）となりました。

営業費につきましては、前期から引き続き、経営全般にわたる業務の効率化や勤務体制の合理化による費用抑制に努め、営業費合計は18億35百万円（前期比108%）となりました。

これに、営業外収益20百万円、営業外費用6百万円を加減した当期の経常利益は4億32百万円となりました。さらに、ホテル立山の事業譲渡益、法人税等並びに税効果会計による法人税等調整額を加減した結果、5億20百万円の当期純利益を計上し、前期に続き、黒字を計上いたしました。

部門別営業成績は次のとおりであります。

ホテル立山宿泊営業成績表（令和6年度）

項 目	実 績	前期比%	
営 業 日 数	230	101	
宿 泊 人 員	26,922	107	(備考)
一日平均宿泊者数	118	100	営業期間(当期)
営 業 収 入	870,284	112	令和6年4月15日～令和6年11月30日
宿 泊 収 入	862,543	111	(宿泊日数229日)
雑 収 入	7,741	120	営業期間(前期)
一日平均収入	3,783	111	令和5年4月15日～令和5年 6月19日
客 室 数	81	100	令和5年6月22日～令和5年11月30日
延 使 用 客 室 数	12,514	108	(宿泊日数226日)
客 室 回 転 率	67	107	
宿 泊 定 員	260	100	
宿 泊 効 率	45	106	

室堂飲食及び物品販売業営業成績表（令和6年度）

項 目	実 績	前期比%	(備考)
【店舗営業】			店舗営業期間(当期)
店 舗 営 業 日 数	230	100	令和6年4月15日～令和6年11月30日
室 堂 到 達 人 員	679,653	120	
店 舗 営 業 収 入	1,170,099	127	店舗営業期間(前期)
食 堂 収 入	373,225	118	令和5年4月15日～令和5年11月30日
喫 茶 収 入	252,059	133	
物品販売収入	538,733	132	(美女平店、大観峰店は令和6年度営業
雑 収 入	6,081	111	休止)
一日平均収入	5,087	127	
店舗営業収入／室堂到達人員	1,722	106	
【店舗外営業】			
店 舗 外 営 業 収 入	24,730	98	
PB商品販売収入	8,613	86	
物品販売収入	16,074	107	
雑 収 入	41	25	

財産および損益の状況の推移

区 分	第55期 (令和3年度)	第56期 (令和4年度)	第57期(当期) (令和5年度)	第58期(当期) (令和6年度)
売 上 高 (千円)	927,394	1,424,536	1,909,485	2,253,568
当期純利益(損失) (千円)	△129,847	83,561	336,847	520,198
1株当たり当期純利益(損失)	△144円27銭	92円84銭	374円27銭	577円99銭
総 資 産 (千円)	1,530,679	1,530,378	1,640,515	2,035,086

令和7年度の取り組み

1. 収益力の維持・向上と持続可能な事業運営へ向けて

令和7年度は、コロナ禍からの回復を命題とした中期経営計画（令和3年度～7年度）の計画最終年に当たります。今後、更なる経営基盤の強化を目指し、持続可能な事業体制の構築を進めてまいります。

当社では、室堂ターミナルの宿泊並びに立山黒部アルペンルートの飲食・物品販売事業に専念しながら業績の回復を目指してまいりました。今期の営業におきましても、引き続き、収益の向上を図るべく、山で泊まらなければ経験できないオンリーワンな魅力やサービスに磨きをかけ、高付加価値のある商品を提供してまいります。

今後多くのお客様に楽しんでもいただき、立山黒部の素晴らしさが広く伝わるよう職員一丸となって邁進いたします。

令和7年度においては、グループとして室堂ターミナルビルの改修工事に着手するほか、DXへの投資等を計画しております。さらに、取り組むべき課題として、ターミナル事業の再編とそれに伴う大規模修繕工事が控えており、それら投資計画の具体化を含む第二次中期経営計画の策定を鋭意進めてまいります。

2. 宿泊・食品の安全確保と自然保護

当社施設や食品の安全については、お客様が安心・信頼してご利用いただけるよう、今後とも万全を尽くしてまいります。施設の日常点検と整備、並びに食品の衛生管理と品質管理を徹底してまいります。

また、特異な環境に配慮した施設設備の維持更新やごみ処理対策の徹底等、引き続き立山黒部の大自然を守り伝えるための努力を続けてまいります。

今後多くのお客様に支持していただき、選び楽しんでもいただける立山黒部アルペンルートへと進化するために、役職員一同全力を傾注してまいります。

今後とも、変わらぬご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

財務諸表

貸借対照表の要旨

(令和7年3月31日現在)

(単位：百万円)

科 目	金 額	科 目	金 額
(資 産 の 部)		(負 債 の 部)	
流動資産	665	流動負債	176
現金及び預金	577	支払手形	10
売掛金	0	買掛金	4
未収金	6	短期借入金	6
未収法人税等	0	関係会社短期借入金	70
商 品	12	未払金	11
貯 蔵 品	42	未払費用	5
前払金	10	未払法人税等	0
前払費用	13	未払消費税等	23
その他の	0	預り金	4
		前受収益	0
		賞与引当金	37
固定資産	1,369	固定負債	863
有形固定資産	975	長期借入金	21
建物	470	関係会社長期借入金	298
建物附属設備	242	退職給付引当金	489
構築物	55	長期未払金	39
機械及び装置	6	その他の	14
車両及び運搬具	0	負債合計	1,039
器具及び備品	47	(純資産の部)	
土地	119	株主資本	904
建設仮勘定	35	資本金	10
無形固定資産	5	資本剰余金	83
ソフトウェア	4	その他資本剰余金	83
電話加入権	1	利益剰余金	810
投資その他の資産	388	その他利益剰余金	810
投資有価証券	164	繰越利益剰余金	810
関係会社株式	35	評価・換算差額等	90
長期前払費用	3	その他有価証券評価差額金	90
繰延税金資産	154		
その他の	31	純資産合計	995
資産合計	2,035	負債・純資産合計	2,035

※記載金額は、百万円未満を切り捨てて表示しております。また、消費税等の会計処理は、税抜方式によっております。

損益計算書の要旨

(令和6年4月1日～令和7年3月31日) (単位：百万円)

科 目	金 額
売上高	2,253
売上原価	441
売上総利益	1,811
販売費及び一般管理費	1,394
営業利益	417
営業外収益	20
営業外費用	6
経常利益	432
特別利益	0
特別損失	0
税引前当期純利益	431
法人税等調整額	△88
当期純利益	520

株主資本等変動計算書

(令和6年4月1日から令和7年3月31日まで)

(単位：百万円)

	株 主 資 本				評価・換算差額等	純資産 合 計
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	株 主 資 本 合 計	そ の 他 有 価 証 券 評 価 差 額 金	
		そ の 他 資本剰余金	その他利益剰余金			
			繰越利益剰余金			
当 期 首 残 高	10	83	290	384	50	434
当 期 変 動 額						
当 期 純 利 益			520	520		520
株主資本以外の項目の 当期変動額（純額）					40	40
当 期 変 動 額 合 計	0	0	520	520	40	560
当 期 末 残 高	10	83	810	904	90	995

※記載金額は、百万円未満を切り捨てて表示しております。

会社概要／役員 (令和7年6月27日現在)

●設立年月日 昭和42年12月24日	●役員 代表取締役社長 常務取締役 常務取締役 常務取締役 取締役 取締役 取締役 監査役 監査役	見角 要 田草川健二 杉林 義宏 内山 高宏 中田 邦彦 清水 智則 桔梗 克彦 出来田 肇 新庄 一洋
●資本金 1千万円	経営管理本部長・ プロジェクト推進室担当	
●発行済株式総数 900,000株	経営管理本部副本部長・ 技術環境部長 経営管理本部副本部長・ 総務部長・ホテル事業部担当	
●株主数 2名	経営企画部長・経理部長 営業推進部長	
立山黒部貫光株式会社 富山地方鉄道株式会社		

アルペンルートと会社のあゆみ

昭和27年 4月 1日	立山開発鉄道株式会社（TKR）設立（資本金2,500万円）
29年 8月13日	鋼索線（千寿ヶ原～美女平）営業開始
30年 7月 1日	高原バス（美女平～弘法）営業開始
31年10月 4日	弥陀ヶ原ホテル営業開始（TKR）
35年 5月 8日	立山黒部有峰開発株式会社（TKA）設立
39年 6月20日	高原バス全線（美女平～室堂）営業開始
8月 1日	関電トンネルトロリーバス（扇沢～黒部ダム）営業開始
11月 7日	TKA第34回取締役会で新会社（TKK）設立を決議
12月25日	立山黒部貫光株式会社（TKK）設立（資本金4億円）
42年12月24日	立山貫光ターミナル株式会社（TKT）設立（資本金3,000万円）
44年 5月 8日	室堂ターミナルビル建設工事着工
7月20日	黒部ケーブルカー（黒部湖～黒部平）営業開始
12月 9日	立山トンネル貫通
45年 7月 1日	富山～信濃大町間を「立山黒部アルペンルート」と命名
7月25日	立山ロープウェイ（黒部平～大観峰）営業開始
12月15日	一般自動車道 桂台～美女平間供用開始（TKA）
46年 4月25日	立山トンネルバス（室堂～大観峰）営業開始
6月 1日	立山黒部アルペンルート全線開業
47年 8月28日	室堂ターミナルビル全館完成
9月 1日	ホテル立山営業開始
54年10月 1日	TKKとTKAが合併
61年 4月11日	宇奈月国際ホテル新築工事着工
62年 9月21日	宇奈月国際ホテル営業開始
平成 2年10月 1日	立山黒部サービス株式会社（TKS）設立（資本金1億円）
3年10月11日	弥陀ヶ原ホテル改築のため閉館
6年 7月12日	弥陀ヶ原ホテル改築営業開始
12年 4月 1日	弥陀ヶ原ホテルTKRから経営受託
17年10月 1日	TKKとTKRが合併（存続会社 立山黒部貫光株式会社）
21年 4月 1日	宇奈月国際ホテルTKKから経営受託
令和 3年 3月31日	宇奈月国際ホテル、弥陀ヶ原ホテル TKKとの経営委託契約を解消
4年 9月 1日	ホテル立山 開業50周年記念日
6年 3月29日	ホテル立山不動産譲渡

ご案内



標高2450メートル、星にいちばん近いリゾート。
ホテル立山
政府登録国際観光ホテル／日本ホテル協会会員

〒930-1414 富山県中新川郡立山町芦峯寺室堂

☎ (076) 463-3345 FAX (076) 463-3348

<https://h-tateyama.alpen-route.co.jp/>

(編集・発行) 立山貫光ターミナル株式会社

〒930-8558 富山県富山市桜町1-1-36

☎ (076) 441-3331 (代表) FAX (076) 433-1185